

閉会のあいさつ

最後のパネルディスカッションの中で、選択と集中というお話がありました。選択と集中と聞くと、何か迫られているという、あるいは財源の問題は避けて通れないというようなイメージがありますが、率直な感想として、そういうような、どちらかと言うと苦しいというか、そういうところではなくて、今求められているのは選択と集中ということに加えて、余裕を持つことではないかと思えます。

例えば、道路整備というものを考えて見ますと、これまでは早く着くということに価値観、重きを置かれてきたわけですし、現状でも、恐らく多くの人々が早く目的地に着きたい、トータルで言えばそういう形になると思えます。そうすると、目的地に早く行ける車が優先される。それは、高齢者がいくら増えても変わらないのだと思えます。

ただ、今、そういうことから一步引いて、少し余裕を持って、ということが全てのことに必要なのだと思えます。

野原先生の話でも、こんなものを作ってどうなるのかというようなことが、今の時代に非常に見直されてきているということもあります。

当然、お金が厳しい、無駄を排除するというのはあるのですが、ある程度は少し余裕がないと、これ

から厳しいのかなと思えます。

それを無駄と見るのか、余裕と見るのか、少しだけ余裕をもって、というところでコンセンサスを得るというのが重要なかなと思えます。

まちづくりを進めていく上で住民参加ということも非常に重要になってきます。私もいくつかの地域のまちづくりに取り組んでいるところを見せていただいているのですが、やはり余裕をもって、これを機会に自分たちが楽しめればいい、というところは非常に長く続いているという傾向もあります。そういうところに参加できる、活動できるというの、ある程度、余裕がないといけないと思えますので、是非、ギスギスしたということではなく、自分自身が楽しみながら、心に余裕を持ちながらまちづくりを進めていくことが非常に大事なのではないかと思えました。

市長さんからも、市民の方々の意見をいろいろと聞きたいというお話もありましたので、次回、よりフランクに、自由な意見を伺うようになれば、より良いものになると思えます。



みんなで歩いて暮らせるまちづくり
ニュースレター Vol.1

平成23年8月 発行
松山市 都市政策課